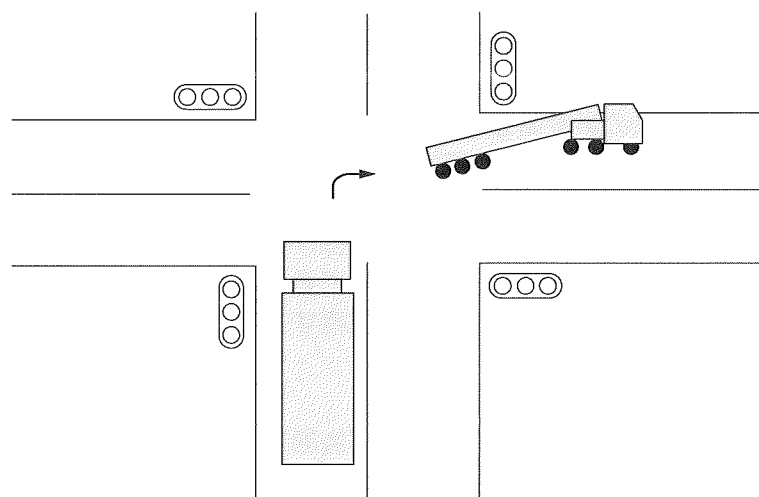


事例 26 交差点を右折時にトレーラが横転

発生日時	3月26日午後6時40分頃	天候	晴
道路状況	国道（制限速度50km/h）の信号のある交差点、路面は乾燥		
事故災害の内容・程度	トレーラが横転し、運転席がつぶれ運転者が死亡した。		

見取図



発生状況

時速50kmで鋼製コイルを運搬中のトレーラが、国道の交差点を右折しようとした際に横転し、運転席がつぶれ、運転者（44歳）が死亡したもの。

災害原因となった問題点（危険要因）

- 1 トレーラは、重心が高いため、カーブでは速度を落とさないと横転しやすいこと。（物）
- 2 運転者が、交差点内で、十分速度を落とさずトレーラの方向転換を行ったこと。（人）
- 3 運転者は、運転者としての経験は7年ほどあったが、トレーラの運転は不慣れであったこと。（人）
- 4 運転者に対するトレーラ運転のための安全教育が不足していたこと。（管理）

災害防止対策

- 1 トレーラの運転者に対して交差点内では、十分速度を落として方向転換を励行させる。
- 2 トレーラの運転業務に就く者に対して安全教育を行うとともに、添乗教育等によってトレーラの特長等に応じた技術を身につけさせる。

事例研究会における検討内容等〔ポイント…トレーラの性能及び特性〕

◎ トレーラ運転者に対する教育指導ポイントについて（陸上貨物運送事業労働災害防止協会発行の「貨物自動車の安全運転実技教本」を利用）

1 車両の転倒限界性能

- 車両が旋回するとき「遠心力」が働き、この力によって生じる「車体を倒そうとする転倒モーメント（転倒回転力）」と「車体を元に戻そうとする復元モーメント（復元回転力）」とが均衡するところを転倒限界といい、転倒モーメントが上回れば限界を越えて車両は転倒する。
- 「遠心力」は「車両全体の重量が大きいほど」「速度が速いほど」「旋回半径が小さいほど」大きくなる。特に「速度」は2乗した数値で「遠心力」を大きくする。
- 「転倒モーメント」は「車両自体及び積荷の全体の重心の高さが高いほど」「遠心力が大きいほど」大きくなる。
- 「復元モーメント」は「車両の左右車輪間の幅（輪距）が大きいほど」「車両及び積荷の全体の重心の高さが低いほど」大きい。
- 以上のように、車両の転倒限界は「速度」「旋回時の半径」「積荷の重量・位置」「重心の高さ」に影響を受けている。

2 大型車両の特性

